

つげ義春 略年譜

- 1937 S12 0歳 4月(戸籍上は10月30日)板前である父一郎、母ますの次男として東京都葛飾区に生まれる。
- 1941 S16 4歳 弟が生まれる(マンガ家・つげ忠男)。母の郷里である、千葉県大原町の漁村小浜へ転居。
- 1942 S17 5歳 父、出稼先である東京の旅館にて亡くなる。
- 1946 S21 9歳 母が再婚。「のらくろ」「冒険ダン吉」などの漫画にふれる。
- 1950 S25 13歳 小学校卒業。中学へは行かず兄の勤め先のメッキ工場に就職。
- 1953 S28 16歳 マンガ家を志し、手塚治虫をトキワ荘に訪ねてプロになる決意を固める。
- 1954 S29 17歳 メッキ工場に勤めるかたわらマンガを描き、4コママンガ「犯人は誰だ!!」が「痛快ブック」に掲載される。
- 1955 S30 18歳 貸本マンガ『白面夜叉』(若木書房)で単行本デビュー。
- 1960 S35 23歳 雑誌「Meiro」(若木書房)の編集を任せられ、表紙やエッセイなども担当。
- 1965 S40 28歳 辰巳ヨシヒロの興した出版社(第一プロダクション)にSFや青春ものを描く。
- 1966 S41 29歳 長井勝一が創刊した「月刊漫画ガロ」に「沼」「チーコ」「初茸がり」を発表。水木プロで働くため調布市へ転居。
- 1967 S42 30歳 水木プロの仕事のかたわら自作も発表。漫画評論誌の「漫画主義」に注目される。高野慎三、石子順造らと知り合う。「山椒魚」「李さん一家」「紅い花」などを発表。
- 1968 S43 31歳 旅行を題材にした<旅もの>が好評を博す。本格的なカメラを購入し、旅先での風景を撮影。調布市内の「陸荘」へ転居。「二岐溪谷」「ねじ式」「ゲンセンカン主人」などを発表。
- 1970 S45 33歳 調布市内「ひなぎく荘」へ転居。
- 1974 S49 37歳 喫茶店開業の予定で荻窪に転居するが2カ月で戻り、調布市内「酒井荘」へ転居。
- 1975 S50 38歳 状況劇場の女優、藤原マキと結婚。マキさん、京王闇でアルバイト。11月、長男が誕生。
- 1976 S51 39歳 「紅い花」がテレビドラマ化され、NHKで全国放送。調布市内の「富士マンション」へ転居。
- 1977 S52 40歳 マキさんが癌を患い、大塚の癌研病院に入院。
- 1978 S53 41歳 念願の住宅を入手し、「多摩川住宅」に入居。将来古本屋や骨董品店を開業する予定で古本マンガ、中古カメラを収集。
- 1981 S56 44歳 古物商の免許を取得。「ビント商会」を設立し中古カメラ売買の副業を始める。

妻、藤原マキさんのこと

藤原マキさん(1941-1999)は、唐十郎主宰の状況劇場の舞台女優として活躍しました。結婚後は妻として、母としての視点で家族との出来事を『私の絵日記』(北冬書房)にまとめたほか、絵本『こんなおみせしてる?』(福音館書店)、画集『駄菓子屋』(ワイズ出版)などを出版。

「家事がすんだ後、毎夜おそくまで、息子が「カーちゃんの部屋」と呼んでいた台所でせっせと書いていましたね」
…「妻、藤原マキのこと」つげ義春『私の絵日記』(学習研究社)より

マキさんによる夫、つげ義春のスケッチ
2月8日 “おとうさんがつくるすいとんは天下一品!”(『私の絵日記』)



「マンガ家・つげ義春と調布」展
調布市文化会館づくり 2階 北ギャラリー
2023年 1/5(木)~1/22(日)
10:00~18:00



実は
入場
無料
なので
す

©つげ義春・講談社
主催:調布市立図書館 協力:公益財団法人 調布市文化・コミュニティ振興財団 講談社

無能の人

多摩川の河原で石を
売る男とその家族を、
ユーモラスかつ温かく
描く。



公開年 1991 監督 竹中直人 製作 松竹第一興行
出演者 竹中直人、風吹ジュン、三東康太郎 他
撮影 佐々木原保志 照明 安河内央之
録音 北村峰晴 美術 斎藤岩男 編集 奥原好幸

ねじ式

「ねじ式」をはじめ「もっ
ぎり屋の少女」「やなぎや
主人」などのつげ漫画を
オムニバス形式で描いた
作品。



公開年 1998 監督 石井輝男 製作 石井プロダクション作品
出演者 浅野忠信、藤谷美紀、森森夕子 他
撮影 角井孝博 照明 野口素晴 録音 曾我薫
美術 松浦孝行 編集 神谷信武

リアリズムの宿

同名作品と「金津の釣り
宿」を元に映画化。二人の
青年が織りなす、あての
ない、おかしく切ない旅
を描く。



公開年 2004 監督 山下敦弘 製作 ビターズ・エンド
出演者 長塚圭史、山本浩司、尾野真千子 他
撮影 近藤龍人 照明 向井康介 録音 古谷正志
美術 宇山隆之 編集 山下敦弘、定者如文

つげ
作品



ゲンセンカン主人

「李さん一家」「紅い花」
「ゲンセンカン主人」「池袋
百点会」を元に、日常に起
きた奇妙な出来事を4つの
エピソードから描く。



公開年 1993 監督 石井輝男 製作 キノシタ映画作品
出演者 佐野史郎、横山あきお、中上ちか 他
撮影 石井浩一 照明 小中健二郎 録音 北村峰晴
美術 丸山裕司、藤木光次 編集 奥原好幸

蒸発旅日記

新しい生き方を求めて旅
に出るマンガ家を描く。
同名作品のエッセイを中心
に、「西部田村事件」等
も取り入れ映画化。



公開年 2003 監督 山田勇男 製作 ワイズ出版
出演者 銀座吟八、秋枝子、清水ひとみ 他
撮影 白尾一博 照明 宮下昇 録音 鮎田秀彦
美術 木村威夫 編集 白尾一博、斎藤禎久

★本展覧会は公益財団法人図書館振興財団2022年度助成事業です
2023年1月 調布市立図書館編集・発行 無断転載禁止

- 1982 S57 45歳 マキさんが『私の絵日記』(北冬書房)でデビュー。
- 1983 S58 46歳 「小説現代」に「つげ義春日記」を連載。
- 1984 S59 47歳 「COMICばく」(日本文芸社)に3年ぶりに「散歩の日々」「池袋百点会」を発表。
- 1986 S61 49歳 千葉館山で乞食生活を続ける浄土宗尼僧と出会い生き方に心打たれる。家族で小旅行。「探石行」「カメラを売る」「やもり」「蒸発」を発表。
- 1991 H3 54歳 息子の高校入学を祝い、奈良、木曾を旅行。「無能の人」が竹中直人監督により映画化。自宅近くのロケ見物に出かけ、ワンカット出演。団地の役員を1年間つとめる。
- 1992 H4 55歳 不整脈が始まり、10年間続けた水泳をやめる。クラシック音楽を聴き始める。石井輝男監督「ゲンセンカン主人」映画化撮影開始。
- 1994 H6 57歳 市内で転居。体調がすぐれず、眼病、耳鳴り、不整脈、腰痛、新たにリウマチも加わる。
- 1995 H7 58歳 『つげ義春全集』(筑摩書房)が完結。「通販生活」(カタログハウス)で旧作が1年間再録される。
- 1997 H9 60歳 妻の癌が新たに見つかる。
- 1998 H10 61歳 看病のため病院と家の往復の日々。石井輝男監督の映画「ねじ式」が公開。テレビ東京系列で「つげ義春ワールド」放送される。
- 1999 H11 62歳 1月、母ます死去。3月、マキさん死去。
- 2002 H14 65歳 「蒸発旅日記」が山田勇男監督により映画化。調布の撮影所へ見物に行く。
- 2004 H16 67歳 『無能の人』仏語版発売。伊の建築デザイン誌に「ねじ式」翻訳掲載。「リアリズムの宿」が山下敦弘監督により映画化。
- 2005 H17 68歳 『無能の人』が、仏のアングレーム国際漫画フェスティバルの「遺産賞」にノミネート。
- 2006 H18 69歳 韓国のマンガ誌に「ねじ式」翻訳掲載。北冬書房のWebサイト「万力のある家」にて、「つげ義春旅写真」不定期連載開始。
- 2011 H23 74歳 府中市美術館で開催された「石子順造の世界 美術発・マンガ経由・キッチン行」に「ねじ式」の原画が展示される。
- 2017 H29 80歳 第46回日本漫画家協会賞大賞を受賞。月蝕歌劇団が「ねじ式・紅い花」を舞台化。
- 2019 H31・R元 82歳 六本木ヒルズにて「つげプロジェクトVol.1 ねじ式展」開催。
- 2020 R2 83歳 アングレーム国際漫画フェスティバルにおいて、マンガ表現を革新した功績に対し「特別栄誉賞」を受賞。初の本格的原画展の会期に合わせ渡仏。前年発売された仏語版『紅い花』も「遺産賞」にノミネート。
- 2021 R3 84歳 功績のある芸術家を顕彰する日本芸術院に新しく設置されたマンガ部門の会員となる。
- 2022 R4 85歳 『つげ義春 名作原画とフランス紀行』(新潮社)刊行。

<参考:『つげ義春 夢と旅の世界』(新潮社)、
『つげ義春大全別巻1』(講談社)>

「旅」を好む、つげさん

日本各地を訪ね歩いた「旅」の風景や出来事は、多くの作品になっています

1966年からの旅年譜が、『つげ義春資料集成』(北冬書房)にエッセイとして発表されました。『貧困旅行記』(晶文社)の中に収められた「奥多摩貧困行」では、1985年に、家族で御岳や網代鉾付近を旅した時の様子が綴られます。

“私の場合は行楽としての温泉には関心がなく、昔ながらの地味で面白味のない湯治場に惹かれていた”
…『つげ義春の温泉』(筑摩書房)

「つげ義春 旅マップ」より

①中華料理八幡 ②八幡神社

多忙になった水木しげるさんに頼まれ仕事を手伝うことになったつげさん。1966年、調布に転居して中華料理八幡のアパートに住むことになる。つげさんの名前を一躍有名にした「ねじ式」は調布が描かれている作品ではないが、このアパートで生まれたエポックメイキングな作品である。

「ある無名作家」には、水木プロダクションをモデルにした「Aプロダクション」や西調布の旧甲州街道沿いの風景が描かれる。

展示会場の「調布巡礼」写真には、八幡神社の境内に座るつげさんの姿が撮影されている。

③ひなぎく荘

「事件」「退屈な部屋」などにひなぎく荘として登場するアパート。1970年から居住。『つげ義春を旅する』（高野慎三著・筑摩書房）によれば、つげさんは「まわりは殺風景な所だったけど、うしろに森があって、アパートの裏に小川が流れて泥鰌が泳いでいたのすぐに気に入って決めたんです」とのこと。「つげさんはこの景色がお気に入りだった」と、大家だった小川さんのご家族も記憶している。また、「夏の思い出」に描かれたとんかつ屋は小川さんが営んでいたお店にそっくりだという。

④京王閣競輪場 ⑤酒井荘

「日の戯れ」で主人公の妻がアルバイトしているのが京王閣競輪場。酒井荘に住んでいた当時、実際に妻のマキさんが車券売り場でアルバイトをしていた。その経緯はエッセイ「妻のアルバイト」に詳しい。競輪場は「石を売る」にも描かれているが、半円形の建物は解体され、当時の面影はない。



京王閣競輪場付近

⑥多摩川 ⑦富士マンション

「無能の人」「石を売る」の主人公が石を採集するのは日活撮影所の辺り、多摩川住宅に近いエリアなどが描かれるが、石を売っていたのは京王相模原線の鉄橋の近くである。「日の戯れ」にも登場するが、昔懐かしい「渡し」や貸しボートが描かれている。

主人公が富士マンションに住んでいる「近所の景色」では、隣接する狛江市で大きな被害を出した1974年の多摩川水害の様子を描いた場面もある。

つげさんにゆかりのある場所



⑧野川 ⑨市民プール ⑩祇園寺 ⑪京王線ガード下

『つげ義春日記』にはマキさんが長男を連れて市民プールへ行ったことが書かれている。また、「散歩の日々」は市民プールのシーンから始まる。ある日の散歩ルートは野川を通して祇園寺らしき寺へと続き、またある日は、子どもの手を引いて京王線ガード下を思わせる場所を通る。祇園寺はマキさんの「私の絵日記」にも登場し、特徴的な石像が描かれている。



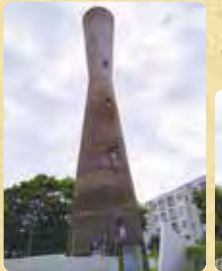
京王線ガード下

⑫ヘビ山

「鳥師」の中で「ソメ地の富士見坂」「富士見坂はヘビ山とよばれ以前は森だった」というセリフが出てくる。つげさんによると、この場所は「『マムシが出るので注意』という立て札もあった」「特定の場所を記したのは、そうした研究調査する人にも知ってほしかったからでもある」とのこと。（講談社『つげ義春大全』第19巻・高野慎三氏の解題より）現在この地域は、南関東では数少ない縄文時代晩期の遺跡「国指定史跡下布田遺跡」となっている。

⑬多摩川住宅

隣接する狛江市にまたがり、総戸数約3,900戸の多摩川住宅。給水塔が5基もある団地は全国的にも珍しく、給水塔ファンの間で「聖地」と呼ばれている。つげさんは1978年、ここに念願の分譲住宅を手に入れる。現在は建て替えのため一部が取り壊され、給水塔も4基となった。多摩川住宅の風景は「石を売る」「鳥師」に象徴的な給水塔とともに描かれ、『つげ義春日記』でも団地界隈の日々の暮らしが綴られている。「散歩の日々」では家族が盆踊りを踊るシーンがある。「そろた そろたよ」の歌詞は、実際に団地祭りで踊られていた「多摩川団地音頭」である。



給水塔と多摩川住宅の風景



⑭布多天神社

現在も毎月第2日曜日に市が立つ布多天神社が登場する「カメラを売る」。ここに描かれる「アンチック 奈加多」は、八幡神社の近くに実在した骨董品店がモデルと思われる。布多天神社の付近には「退屈な部屋」のモデルになった建物があった。